

知る 広がる 好きになる

たかつき DAYS

令和2年

1

No.1382

ずっと変わらない、大切なもの

Interview
芥川宿に縁のある皆さん

ずっと変わらない、大切なもの

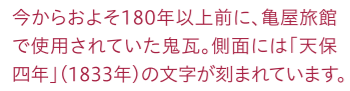
時代とともに、変わっていく街並みでも、そんな風景のなかに、脈々と受け継がれる想いがあります。かつての宿場町・芥川宿を取材しました。



①中井小百合さん

何気ない風景に息づく宿場町の面影

格子扉が美しい町家に、石の道標、お化粧をしたお地藏さん。JR高槻駅のすぐ近くに、歴史が息づくこの懐かしい一帯があります。かつて西国街道を行き交う人々が、ほとと一息ついた宿場町、芥川宿です。



今からおよそ180年以上前に、亀屋旅館で使用されていた鬼瓦。側面には「天保四年」(1833年)の文字が刻まれています。

江戸時代には旅籠^{はたご}や商店が街道にひしめき合い、参勤交代の一行や、旅装束に身を包んだ人々が道にあふれていたのでしょうか。穏やかな空気が流れるこの街には、歴史を越えて受け継がれてき

た物語があります。

芥川宿について詳しく聞くため、旅籠の最後の一軒、亀屋旅館の13代目女将①中井小百合さんを訪ねました。亀屋旅館が今の位置に移転したのは、約200年前のこと。正しい創業年はわかっていませんが、約300年前に描かれた古地図にも、現在とは少し離れた場所に「亀屋」の文字が残っています。

「私が幼い頃は、まだ籠のまま廊下に入れる長屋がいくつか残っていました。高貴な方などが、顔を知られないまま泊まることもできたのだと思います。女将さんは、さまざまな人が行き交う街道沿いの旅籠ならではのエピソードを教えてくださいました。生まれも育ちも芥川宿、人生の多くの時間をこの地で過ごしてきた女将



P3左上の鬼瓦がモチーフの暖簾(のれん)



さんに、地元への想いを聞きました。「昔と比べて風景はだいぶ変わりました。一方で、町家や古民家を生かしてお店を開いてくれる人もいます。私も、旅籠の最後の一軒として、この旅館を守っていききたいと思っています。」

新旧が混ざり合う芥川宿の新展開

女将さんの話にも出たように、ここ最近、芥川宿でお店を開く人が徐々に増えてきています。10年ほど前、珈琲店をオープンした②梁悟朗さんもその一人です。

高槻市出身の梁さんは、関西の街をいくつも見て回って、芥川宿に店を開くことを決めました。「この建物

西国街道の宿場町、芥川宿

17世紀初めに宿場町として整備され、西国街道の休憩所として、大変にぎわいました。19世紀前半には旅籠が33軒もあったといいます。現在もいくつかの町家や史跡が残り、当時の面影を残しています。



は、もともとお米屋さんでした。大きな格子扉はそのままに、中だけを喫茶店用に改装したんです。私がこの地に開店してからを振り返ってみると、新しいお店が増えましたが、芥川宿でお店巡りをしているお客さんも、たまに見かけますよ。」

毎朝、格子扉から漂うコーヒーの良い香りも、今では芥川宿の日常の一つ。町家を生かした珈琲店は、新旧が混ざり合う、芥川宿の新たな魅力象徴しています。



②梁悟朗さん



5 水谷敏彦さん保子さんご夫婦



芥川一里塚と三宝荒神の祠



住民の誇りによって 守られる文化と風習

地蔵尊や石碑など、芥川宿には多くの史跡が残っていますが、それらに共通しているのは、どれも大切に手入れがされていることです。その背景には、地域の人が芥川宿を誇りに想う気持ちが隠されています。

例えば、西国街道の距離を示す役割を持っていた芥川一里塚。長年の雨風、また大樹の根張りによって囲いもろくなっていたことを受け、修復に立ち上がったのが180年以上続く酒店の主人③西田直弘さんと、二軒隣の美容院オーナー④小林正人さんです。二里



3 西田直弘さん(左) 4 小林正人さん(右)

塚は、この地が誇る歴史遺産です。塚の傍らには、三宝荒神がお祀りされていて、人々の心のよりどころでもありました。『芥川一里塚 三宝大荒神保存会』を立ち上げ、改修の寄付を募ったところ、本当に多くの方から協力を得ることができたんです」と西田さん。

小林さんは「私は芥川宿の生まれではありませんが、昔から一里塚の側で美容院を営んでいます。この地に恩を感じていますし、一里塚と祠をここで朽ちさせてはいけないと強く思いました。立派に改修されたでしょう」と満面の笑み。ともに改修を志した盟友のお二人からは、芥川宿への愛をひしひしと感じます。

また、芥川宿の西詰、子宝地蔵尊をお世話しているのは、⑤水谷敏彦さん、保子さんご夫婦です。

「私が幼い頃、このへんはざらりと商店が並んでいて、それはにぎやかでしたよ。その名残で、住宅ばかりになった今も、みんな屋号で呼び合ってます。うちはオワリヤ、あの家はタネチヨ、あの家はカサク。」。そう話しながら、撮影用にと立派な提灯をたててくれた敏彦さん。保子さんは、せっせとお花の水を替え、ほうきでごみを集めます。白塗りの化粧や赤

い前掛けも、お二人が周囲の協力を得ながら、折を見て新調しているものだそうです。

最後に、お地蔵さんの前でお二人の記念撮影。花を飾られ、どこか誇らしげなお地蔵さんからは、二人のこまやかな心遣いが伝わってきました。「この地域を長く守ってきたお地蔵さんだから、大きな案内板でも作れたいいなあ」と敏彦さん。お二人をはじめ、地域の人の努力があつてこそ、お地蔵さんは今日も穏やかに、芥川宿を見守っています。

新しいことばかりでは 気付けない豊かさがある

歴史的な景観は、市民一人ひとりの手によって守られていることがほとんど。通りで一目をひく、脇本陣だったという町家も、⑥久保正裕さんが両親から受け継いだものです。町家で生まれ育った久保さんは、幼い頃から特別な体験をしてきました。「私が小学生の頃まで、台所は土間、浴室は新風呂、井戸も現役でした。友達の家に行くたび、一般的な家がうらやましくなったものです(笑)。でも

今は、この町家を守り伝えていきたいと思っています。歴史的価値はもろろん、ここでは時間がゆったり流れるんです。四季のうつろいを感じ、心が落ち着きます。幕末の動乱期、歴史的人物も宿泊したと伝わる脇本陣は、今も昔も、人々の心を癒やし続けていました。

車で通り抜けるだけではきつと気付けない、歴史のかげらたち。ゆっくりと歩くと、この街に脈々と流れる文化や風習に、身を包まれることでしょう。この地で守られてきたものは、現代を慌ただしく生きる私たちに、豊かに生きるヒントを教えてくれる気がするのです。



6 久保正裕さんが受け継いだ町家

インタビューに協力いただいた、 芥川宿に縁のある皆さん

① 亀屋旅館13代目女将 なかい さ ゆり 中井小百合さん

芥川宿に33軒あった旅籠の最後の軒で、女将を務めて約30年。落語家を招いた寄席の開催など、芥川宿を盛り上げています。

② 西田本店主人 にし だだひろ 西田直弘さん

江戸時代創業の酒店を営みながら、芥川連合自治会の会長を務め、芥川宿の文化を発信。今回の取材先の多くが、西田さんの紹介です。

③ 子宝地蔵尊を守る みずたにとしひこ やすこ 水谷敏彦さん保子さんご夫婦

元旅籠の家系に生まれた敏彦さん。約10年前、夫婦で子宝地蔵尊の世話を引き受け、平成30年の台風では、屋根瓦の修理も行いました。

④ リザルブ珈琲店オーナー りょうのお 梁悟朗さん

2010年、念願だった珈琲専門店を芥川宿にオープン。このエリアに続々オープンしているカフェの、草分け的存在かもしれません。

⑤ 美容院It's Alright, Maオーナー こばやしまさと 小林正人さん

約30年前から芥川宿で美容院を営み、5年前には住居も芥川宿に。一里塚自治会の会長に就任し、一里塚の改修の先陣を切りました。

⑥ 脇本陣を受け継ぐ くぼまさひろ 久保正裕さん

脇本陣(大名などが泊まる本陣の予備の宿だったという町家)で生まれ育ち、町家を今も大切に保存し続けています。

7 しまがみぐんがあと 嶋上郡衙跡



奈良～平安時代、摂津国嶋上郡の郡役所が置かれていた。現在は、レンガや芝生で当時の郡庁院を1/3スケールで再現している。

6 芥川宿水門跡



芥川宿の西口に、石垣に支えられた石柱が残る。芥川の増水時には、石柱の縦溝に止水板をはめて、宿場への浸水を防いだ。

5 子宝地藏尊



子宝・子育てにご利益があると伝わる。隣の燈籠(とうろう)は1822(文政5)年、愛宕神社を信仰する「愛宕講」が建てたもの。

8 妙見道を示す道標



西国街道が、能勢妙見山へと続く妙見道と交わる場所。妙見山への案内が、形が異なる三つの道標に記されている。



巡礼橋

茨木市・総持寺や、亀岡市・穴太寺(あなおい)に向かう人が渡った橋。

GOAL!!



取材の様子はInstagram高槻市公式アカウントで配信!

広報室・上野&岡本が行く たかつき西国街道の旅

高槻市を横断する西国街道を、実際に歩いてみたい! そんな思いつきから始まったこの企画。広報室の二人が、江戸時代の旅人風の装いで歩いて来ました。

全長約8kmを踏破!



高槻市 広報室 上野 真嗣(左)、岡本 龍一(右) 『たかつきDAYS』のベテラン上野とルーキー岡本。広報室のベストコンビが、街道沿いの魅力発信に奔走。

1 梶原一里塚跡



一里塚とは、一里(約4km)ごとに置かれた街道の目印。高槻市内では、梶原と芥川宿の2カ所にあった。

大きいなー!!



2 一乗寺



樹齢約800年と伝わる、高さ約30mのクスノキがそびえ立つ。西国街道を通りかかった弁慶が、馬をつないだという伝説も。

3 芥川一里塚



芥川宿の東口に現存する一里塚。通常はエノキが植えられるが、現在は、なぜかムクノキに。改修を終えた玉垣にも注目!



このへんはお寺や神社がいっぱい!

畑山神社

瑞應寺

山手町薬師堂

成就寺

梅尾川

安満遺跡公園

上宮天満宮

芥川商店街

JR高槻駅

阪急高槻市駅

けやき大通り

イチョウの古木

街道のあちこちでお地蔵さんを発見!

教宗寺

創建は1287(弘安10)年。江戸時代の絵図には、町家や旅籠に囲まれた、瓦葺きの教宗寺が描かれている。境内に残る石槽は大阪府の有形文化財。